

## 助成事業実施報告書

団体名 わいわいサロン

代表者・役職名 氏名 茂木 二信

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 助成プロジェクト名

みんなのお茶の間「わいわいサロン」

## 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

長年住み慣れた所で、楽しく、助け合って老後を過ごしたいと、何時でも集まれる場所を都公社より借りた。住民の高齢化年齢が65歳を過ぎた、15年前より設立し、会員約80人。

## 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

これまで会員が培ってきた能力を生かしながら、様々なサークル活動をしている。一人でも孤独な老人を出さないように助け合っていきたい。

## 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

一人暮らしの人へのヘルパー(食事作り)週一回実施。  
健康体操・音楽会・カラオケ(週一回)・囲碁・絵手紙など。  
お喋り・お茶のみなど気軽に参加できる場にしたい。毎日2時間の開所で、年間300日開いている。  
3月からは当分休館を余儀なくされている。

## 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生じた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

貴会のご支援によって、地域に活動を知らせることができ、2月までは参加者も、協力者も増えてきましたが、コロナ騒ぎでイベントの中止や参加者の減少が色々痛手となっています。  
コロナ騒動終息後は初心に帰って活動を続けたいと考えています。  
それでも今年度は延べ5000人近い参加者がありました。

## 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回のように世界規模の「感染症ウイルス」問題で集まることができず、イベントも中止せざるを得ないようなときは、参加費もなく運営費が払えなくなるのが、大変困っています。  
自然災害などでは、炊き出しなどの助け合いはできるのですが、本当に困りました。

## 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし